

令和6年度 安全管理推進大会 を各地区で開催！

〈スローガン〉「危険に気付くあなたの目 そして摘み取る危険の芽 みんなで築く職場の安全」

令和6年度全国安全週間の準備期間である6月に、沖縄県労働基準協会の各支部と関係労働災害防止団体等の共催、各労働基準監督署の後援により、各地区において安全管理推進大会が開催されました。

那覇地区

6月7日（金）に、アイム・ユニバースでこホール（小ホール）にて令和6年度那覇地区安全管理推進大会を開催し、91事業所 150名が参加しました。

参加者全員で黙祷を捧げたあと、開会あいさつをした仲西聡労働基準協会那覇支部長は、昨年の県内における死亡災害が前の年を大幅に上回ったことにふれ、「この深刻な状況を重く受け止め、各事業場で安全管理対策に継続的に取り組んでほしい」と呼びかけました。



南隆功那覇労働基準監督署長からは、「労働災害を発生した事業場から提出される『労働災害防止対策』を見ると、『手順の見える化』、『現場の声を生かしたリスクアセスメント』や『効果のある安全衛生教育』等の取り組みが認められており、今後も継続的に実施して頂きたい。災害防止対策は、直ぐに効果が出るものではなく、日々の積み重ねが大切です。『千里の道も一步から』と申すように、出来るところから少しずつ取り組めば、いつかは目標を達成できると思います。」旨の来賓あいさつがありました。

佐喜真那覇監督署安全衛生課長からは、全国安全週間に向けての取り組みや荷役作業、脚立からの転倒災害防止等について説明がありました。



特別講演では、那覇市防災危機管理課 主幹・防災士の源河北斗氏より「災害への備えと安全管理」と題し、「災害は忘れる前にやってくる」と唱え、避難警戒レベルや避難情報の発令の重要性、災害に備える基本的考え方などの説明がありました。

建災防沖縄県支部南部分会の安全指導員を中心に参加者全員で安全週間スローガンの指差唱和が行われ、労働災害ゼロへの決意を新たにしました。大会宣言は、建荷協沖縄県支部の安里副支部長より読み上げられ、参加者全員が労働災害のない安全で快適な職場づくりを目指すことを宣言しました。



中部地区

6月5日（水）、沖縄市産業交流センターにて令和6年度中部地区安全管理推進大会を開催し、75事業所 137名が参加しました。

参加者全員で黙とうを捧げたあと、共催者を代表して金城稔労働基準協会中部支部長のあいさつで開会し、金城支部長からは、大会を機にこれまでの取組みを検証し、改善の必要性があれば一つでも改善するなど、全員で安全な職場を築けるよう取り組んでまいりましょうとの呼びかけがありました。



比嘉健三沖縄労働基準監督署長からは、「死亡災害は、昨年県内 6 名のうち 5 名が沖縄監督署管内で発生する非常事態であった。令和 6 年は管内では死亡災害は発生していないが、休業 4 日以上の死傷者は 4 月末時点で 106 件と昨年同時期に比較し 1 名増加となっており予断を許さない状況である。基本的災害防止対策として『注意してください』という抽象的指摘ではなく、『手すりの設置を点検してください』等と具体的に指示していただきたい。産業経済の発展は労働力であり、労働者の安全と健康を守ることは自社の発展のキープポイントであることを認識し、安全週間のみならず継続的・長期的視点にたった労働災害対策をなお一層推進してください。」旨の来賓あいさつがありました。

松橋直樹沖縄監督署安全衛生課長からは、「『安全』について考える」と題して説明が行われ、国際安全規格の「安全」の定義は「許容できないリスクが存在しないこと。」で、日本語の「安全」の意味であるリスクがないとは違っている。労働災害防止対策は、従来の『すべての危険をなくす』という発想の「絶対安全」から、『より「安全」寄りに近づける』という「リスクに応じた対応」でよいのではという旨の説明がありました。

